

平成 28 年度 上越市外国語活動部 活動報告

部長 東條 善夫

1 研究主題

コミュニケーション能力の「素地」から「基礎」へとつなぐ外国語活動及び英語教育の授業改善（2年次）

2 研究の概要

当部会では、今年度も、小・中学校の学習内容の「一貫性」を重視した指導の工夫について、市教育センター委嘱のスーパーティーチャーによる公開授業を通して、コミュニケーション能力の育成と授業改善、特に小学校では「クラスルームイングリッシュ」を数多く用いて授業展開をするよう心掛けてきた。中学校では「Readingに重点を置いた場合の授業づくり」を提案し研修を深めていくこととした。

3 研究の実際

(1) 公開授業

期 日 平成 28 年 11 月 11 日
会 場 上越市立清里小学校
授業者 内山 寿彦 教諭
ALT Chanelle Guillaume
単元名 「What do you want?」
(Lesson 5 Hi, friends! 1)



内 容

○ [Activity I]

・色、数、形の言い方をグループ毎に発表の練習をする。練習の進め方を確認する。

○ [Activity II]

・会話の復習とケースをデザインする活動をする。それぞれの発表ごとに、よかった点や修正した方がよい点などについて出し合う。

(2) グループワーク

・協議題「思いや考えを伝え合い・学び合う活動を通してコミュニケーション能力を高める授業づくり～学級担任が主体的に取り組む外国語活動の授業を目指して～」について、「KPT」の手法でグループワークを行い、以下のように要旨をまとめた。



【Keep: 上手くいったこと、次からも続けたいこと】

・相手意識、目的意識をもったゴール設定（上越市小・中合同音楽祭でリコーダーを入れるケースのデザインをする）により、必然性のある場面となり、さらに、クラスルームイングリッシュの中でもほめる言葉を教師も子どもも使い、自然に使えるようになっていたので、子どもが主体的に動くことができていた。

(3) 指導・講評（上越市教育委員会学校教育課 指導主事 岩片 嘉和 様）

・クラスルームイングリッシュを使うように心掛けている。（適切な使用場面がある）
・補助教材（Hi, friends!）に固執しない。授業展開のパターンができています。
・英語の音声になれるのはある意味大変である。母音が入らない発音を心掛けさせる。
・十分に聞く、聞くだけでなく聞いて反応を返す、聞いたように言う、自力で言う、使ってみる、通じたという体験を積ませる。

4 研修の成果と課題

目的意識、相手意識を明確にし、必然性を重視した場面設定や小・中・高の縦のラインを意識した『英語による英語』の授業づくりは小学校英語の教科化の準備段階において大変参考になる提案である。今後は、小学校では中学年と高学年との連携をどのようにとるか、中学校では外国語教育における「CAN-DO リスト」の自校化についての研修を深める必要がある。